

大学名：__三重大学__

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述	外部公表の 可否
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	私立青山高等学校から相談があり、担当先生と学生との相談に応じた。	
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。		
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	ユネスコスクールの三重県立桑名高等学校は、SSH 指定校として、ESD/SDGs 教育に熱心に取り組んでいる。三重大学の朴 恵淑特命副学長（環境・SDGs 担当）は、運営指導委員会の委員長として関わり、年2回、全校生徒を対象とする、ESD/SDGs に関する特別講演；出前授業）を行っている。また、2019 年 12 月 15 日に三重県は「ミッションゼロ 2050 みえ～脱炭素社会の実現を目指して」を宣言し、その実現に向けて、三重県の全ステークホルダーを対象とする、トップチーム、アクションチーム、若者チームを構築しており、アクションチームの座長でもある朴 恵淑特命副学長（環境・SDGs 担当）は、三重県知事に、若者チームの構成員に桑名高校生をメンバーに入れることを打診している。現在、三重大学生などが主に参加していることに加え、高校生もメンバーに入れることで、次世代を担う人材育成においてさらなる活動の活性化を期待している。	可
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	ユネスコスクールの三重県立桑名高等学校において、ESD/SDGs 出前授業を行った（2022 年 2 月 18 日（金））。テーマは、「COP26（グラスゴー会議）報告～気候危機と健康」で、朴 恵淑三重大学特命副学長（環境・SDGs 担当）が講師を務めた。 イギリス・グラスゴーで開催された COP26 において、特に、気候変動から気候危機に変わる 21 世紀最大課題の地球温暖化問題の解決のためには、SDGs・カーボンニュートラル社会創生が必要不可欠であり、次世代を担う人材育成が最優先であることを伝え、時代をリードするリーダーシップについての学習を行った。	可
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	ユネスコスクールである三重県立木本高等学校と三重大学の共催で、三重県のユネスコ世界文化遺産である熊野古道を歩くツアーを 2021 年 12 月 19 日（日）に実施した。この活動は、三重大学生および留学生が三重県のユネスコ世界文化遺産である熊野古道の理解を深めること及び木本高校生が英語で熊野古道を案内する取り組みとの連携で、国際交流を深める取り組みである。松本峠や鬼ヶ城側を歩いた後、木本高等学校に移動し、吹奏楽部の演奏、	可

		バルーンアートと折紙の体験を行った後、日本最古の神社と言われる花の窟（いわや）の見学を行った。	
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	2021 年 6 月から 10 月にかけて三重大学・三重県・三重県地球温暖化防止活動推進センターが中心となって「オール三重で COOL CHOICE」の DVD(15 分)の制作を行い、2021 年 11 月から 12 月まで三重県内のケーブルテレビ(ZTV)において 40 回の放送を支援した。内容は、地球温暖化のメカニズムと影響(適応)、三重県の地球温暖化対策総合計画(緩和)、企業の取り組み、四日市公害の克服とその教訓を活かした「持続可能な三重創生」、ユネスコスクールの三重中学校・高等学校の伊勢湾最大級の干潟(松名瀬)で生物多様性の学習及び三重大学 ESD-SDGs クラブの活動などで構成され、ユネスコスクール及びユネスコスクール登録を目指す小中高校へ貸出用環境教育 DVD として活用している。	可
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	三重大学と中部電力(株)の協働事業である「エネルギー環境教育」の発展的展開として、2021 年 9 月 16 日に WG を行った。2030 年の SDGs の目標達成及び 2050 年のカーボンニュートラル社会創生に向けた、再生可能エネルギーの導入、省エネ活動を通じた、三重大学の環境・エネルギーマネジメントシステム(EMS・EnMS)構築のための戦略、対策、地域への還元などに加えてユネスコスクールの活動を報告し共有して、戦略的取り組みとなる WG の活動を継続して行うこととなっている。その成果は、2021 年度エネルギー環境教育成果報告書、三重大学/中部電力(株)、73 ページにまとめ、公表している。	可
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	ユネスコスクールである三重大学教育学部附属中学校の ESD/SDGs 活動の報告において、三重県地球温暖化防止活動推進センター、NPO 法人三重総合環境研究センター、伝七郎 ESD-SDGs スクールの関係者の参加を呼びかけ、学生の活動と地域のステークホルダーとの連携を図った。	可
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	三重大学・中部大学・朝日大学・名古屋市立大学・名古屋大学などとの連携による、中部 ESD 拠点協議会(事務局; 中部大学国際 ESD・SDGs センター)において、三重大学は研究開発部門長(朴 恵淑三重大学特命副学長(環境・SDGs 担当))を務めており、ESD/SDGs 活動において、三重県のみならず、東海地域への拡大に協力している。	可
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	三重大学は、日本・韓国・中国・タイの約 200 大学が加入している、アジア・サステイナブル・キャンパス・ネットワーク(ASCN)の中心メンバー(日本サステイナブル・キャンパス・ネットワーク(CAS-Net JAPAN)の会長; 朴 恵淑三重大学特命副学長(環境・SDGs 担当)として、ユネスコスクールの存在や意義について広く知らせている。2021 年 1 月 21 日に、タイで開催された ASCN 総会において、朴 恵淑三重大学特命副学長(環境・SDGs 担当)は基調講演を行い、三重県のユネスコスクールの ESD/SDGs について発表を行った。	可

	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	韓国のユネスコスクールを支援する大学（梨花女子大学、世宗大学、中央大学など）の関係者とソウルでの対面式打ち合わせ（2021 年 10 月 27 日～11 月 6 日）を行った。また、必要に応じて関係者とのオンライン会議を行っている。	可
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	イギリス・グラスゴーで開催された、国連気候変動条約第 26 回締約国会議（COP26）に、2021 年 11 月 8 日～11 月 14 日まで、朴 恵淑三重大学特命副学長（環境・SDGs 担当）が参加し、三重大学及び三重県のユネスコスクール活動を紹介し、三重県内だけでなく、ユネスコスクールのグローバル活動に広げることができた。主なツールとしては、「三重大学環境・SDGs 報告書 2021」の WEB 版及びリーフレット（WEB 版と印刷版）を持参し、緑の気候基金財団の総裁や専門官との打ち合わせ、韓国政府団との打ち合わせ、SDGs パビリオンの関係者、日本パビリオンの関係者、国際環境 NGO との打ち合わせなどを積極的に行った。	可
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	三重大学は、ユネスコスクール委員会を構築し、研究科・学部から委員を委嘱して運営している。特に、2021 年度からは三重大学国際環境教育研究センター（GECER）の HP に、ユネスコスクールのバーナーを設け、三重大学ユネスコスクール委員会の活動、成果などを常に公表している。 三重大学国際環境教育研究センター（GECER）HP https://www.gecer.mie-u.ac.jp/	可
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	三重大学の教養教育のカリキュラムに「環境科学～環境管理学と SDGs」、地域イノベーション学研究科の修士・博士課程のカリキュラムに「社会経営基礎特論」及び「基礎科学特論」の講義において、ユネスコスクールにかかる教育を行なっている。資料は、三重大学 Moodle にアップしており、受講生はいつでもカリキュラム内容にアクセスできる。 また、教職員と学生を対象とする、地域イノベーション学研究科の研究内容講演会を通じて、ユネスコスクールに関わる教育を行なっている。	可
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	2021 年 11 月 20 日に『持続可能な三重創生と SDGs 経営』、風媒社、226 ページを出版した（朴 恵淑・矢野竹男編著）。第 1 章「国連持続可能な開発目標（SDGs）と持続可能な三重創生及び「環境・SDGs 先進三重大学」において、ESD/SDGs、三重大学のユネスコスクール登録・活動、国連生物多様性第 10 回締約国会議（COP10）、ESD に関するユネスコ世界会議・パートナーシップ事業、ジュニアサミット in 桑名 2016、三重大学・中部電力（株）との協働事業エネルギー環境教育、三重大学環境・SDGs 方針、三重大学国際環境教育研究センター GECER」など、ユネスコスクールに関連した調査研究内容が網羅されている。	可

	4. 自由記述	(1) 2022 年 7 月 24 日は、「四日市公害訴訟判決」50 周年となり、四日市公害の教訓から学び、次世代を担うグローバル人材育成が求められている。また 2022 年 6 月は、世界初の「国連人間環境会議」カストックホルムにおいて開催されてから 50 周年となる。さらに、2030 年の「国連持続可能な開発目標 (SDGs)」の折り返しの年でもある。四日市公害の過去の「負の遺産」を未来の「正の資産」にかえるために、「持続可能な社会・カーボンニュートラル社会」に向けた戦略・行動を促す有効なツールとして、「ESD/SDGs」のさらなる発展的展開が求められている。三重大学は、高等教育機関として三重県唯一のユネスコスクールであることから、四日市公害の教訓を活かした、ESD/SDGs の「三重モデル」の構築を最重要課題として戦略を練っている。 (2) 日本の大学生による「第 16 回環境マネジメント全国学生大会」が、2022 年 6 月 25-26 日に三重大学で開催される。以前は、ISO14001 の認証取得の大学を中心とするイベントだったが、今回の大会をターニングポイントして捉え、ESD/SDGs、カーボンニュートラル社会形成に向けた、次世代人材育成をターゲットとする。分科会（ワルドカフェ）の成果物として「三重宣言」をまとめ、内外へ公表する企画を練っている。 (3) 三重大学と駐名古屋大韓民国総領事館との共催による「日韓環境・SDGs フォーラム in 三重」が、2022 年 7 月 15 日に三重大学において開催される。2030 年の持続可能な社会、2050 年のカーボンニュートラル社会形成に向けて、国連持続可能な開発目標 (SDGs) ・国連気候変動枠組条約締約国会議 (COP) の動向及び WHO の気候危機による健康被害の提言を踏まえ、また、日韓の国際環境協力と次世代人材育成を見据え、産官学民のグローバルパートナーシップによる国際環境・SDGs フォーラムへの期待は非常に高い。動画配信サービスを通じた国内外へのアピール及び「三重大学ユネスコスクール報告書 2022」及び「三重大学環境・SDGs 報告書 2022」に掲載する (2022 年 9 月 30 日に公表)。 (4) 国連気候変動枠組条約第 27 回締約国会議 (COP27) が、2022 年 11 月頃にエジプト (シャルム・エル・シェイク) で開催予定であり、朴 恵淑三重大学特命副学長 (環境・SDGs 担当) が参加し、三重大学及び三重県のユネスコスクール活動を各国の政府代表団、企業、NGO など、世界のステークホルダーを対象にアピールし、帰国後に COP27 報告会を行う予定である。 (5) 日本サステナブル・キャンパス・ネットワーク (CAS-Net JAPAN) の第 10 回年次大会が、2022 年 12 月 3-4 日に三重大学において開催される予定である。日本全国の大学の教職員及び学生が三重大学に集まることから、特に、三重大学及び三重県のユネスコスクールの活動報告を行う戦略を練っている。三重大学及び三重県のユネスコスクールの強みはさらに強く、弱みを補える機会とし、「三重モデル」の構築を練っている。	可
--	---------	---	---